

## 2012 年世界無線通信会議（WRC-12）の各議題に対する我が国の考え方 に係る意見募集の結果

### ○提出された意見の概要及びそれに対する総務省の考え方

概要	総務省の考え方
<p>議題 1.5 について</p> <p>世界共通／地域共通の ENG 用周波数の特定は、国際的な正義の実現に寄与する国際的なジャーナリズムの円滑化及び電子機器産業の振興に寄与する ENG 用機器の共用化に資するものであるため、我が国としても、もっと積極的な姿勢で臨むべきだと思います。したがって、＜考え方＞中「世界共通／地域共通の ENG 用周波数の特定については、」を「世界共通／地域共通の ENG 用周波数の特定を支持する。ただし、」とし、「影響が」の下に「できるだけ」を加えるべきだと思います。</p> <p style="text-align: right;">（個人）</p>	<p>本議題につきましては、世界共通／地域共通の ENG 用周波数を検討するものですが、解決策次第では既に稠密に使用されている周波数により一層集中し、既存無線局の運用に支障を及ぼすことが予想されます。日本では極めて稠密に周波数を利用している実態があるため、既存業務への影響に十分配慮する必要があります。</p>
<p>議題 1.11 について</p> <p>本議題では、22.55-23.15GHz 帯における宇宙研究業務への一次分配の検討が行われますが、我が国では 22.4-22.6GHz 及び 23.0-23.2GHz 帯が、携帯電話事業のエントランス回線に使用されています。</p> <p>本議題に対する ITU-R での研究の進展を踏まえ、APT-WRC 準備会合に対し、既存業務の保護を優先して、我が国の対処が行われることを希望します。</p> <p style="text-align: right;">（株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ）</p>	<p>22.55-23.15 GHz 帯における宇宙研究業務の一次分配に当たっては、既存の無線通信業務の保護が確保されるようにすることが適当と考えます。</p>
<p>議題 1.15 について</p> <p>分配に適した帯域として、13 870-14 000 kHz 及び 14 350-14 990 kHz が挙げられています。一方、アマチュア業務（1次業務）が 14 000-14 350kHz で行われていることから、13 870-14 000 kHz 及び／又は 14 350-14 990 kHz を分配することにより、レーダに分配される帯域がアマチュア業務の帯域と隣接することとなる場合には、アマチュア業務の帯域と隣接する周波数帯にガードバンドを設定して頂きたいと考えます。（24 000-24 890 kHz についても同様です。）（レーダ波による「オフバンド」回避の為。技術基準を満たさない無線機器による「オフバンド」その他の不具合が懸念されます。）</p> <p style="text-align: right;">（個人）</p>	<p>3-50 MHz 帯への海洋レーダのための無線標定業務の新たな周波数の分配に当たっては、スプリアス許容値を満たすよう波形整形をすることや、必要に応じたガードバンドの設定など、隣接帯域における既存の無線通信業務の保護が確保されるようにすることが適当と考えます。</p>

<p>議題 1.17 について</p> <p>本議題では、第 1 及び第 3 地域の 790-862MHz における移動業務とその他の業務の共用検討が行われますが、我が国では既に当該周波数の一部を携帯電話用周波数として使用しており、移動業務に対して新たな制約を課すことは不適切であると考えます。</p> <p>考え方を支持するとともに、本考え方に従って、APT-WRC 準備会合に対し、我が国の対処が行われることを希望します。</p> <p>(株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ)</p>	<p>議題 1.17 の考え方を支持する御意見として承ります。</p>
<p>議題 1.23 について</p> <p>提案の考え方に賛同いたします。特に議題 1.23 415-526.5kHz におけるアマチュア業務の 2 次分配の検討につきましては、中波帯の伝搬等アマチュア無線にとって通信、技術的研究のためにアマチュア無線業務に配分いただけることを希望いたします。</p> <p>(株式会社ケンウッド)</p>	<p>議題 1.23 の考え方を支持する御意見として承ります。</p>
<p>議題 1.23 について</p> <p>「415-526.5kHz におけるアマチュア業務の 2 次分配の検討」についての〈考え方〉を全面的に支持します。連続的に 15kHz の幅を 2 次的に分配する解決法を希望します。</p> <p>(一般財団法人日本アマチュア無線振興協会)</p>	<p>議題 1.23 の考え方を支持する御意見として承ります。</p>
<p>議題 1.23 について</p> <p>アマチュア業務への 2 次分配に賛成します。中波ラジオの中間周波数に多用される 455kHz を避けた分配になると想定しております。</p> <p>(個人)</p>	<p>議題 1.23 の考え方を支持する御意見として承ります。</p>
<p>議題 8.2 について</p> <p>77.5-78.0GHz はアマチュア／アマチュア衛星業務に 1 次的基礎で分配されており、割り当てを受けたアマチュア局が 180 局近くあります(※)。アマチュア業務の活性化の為、また、すでに上下の周波数帯が無線標定業務に対して 1 次的基礎で分配されていることから、この周波数帯を他業務に分配することは(2 次的基礎であっても)適当でないと考えます。</p> <p>※無線局等情報検索にて確認</p> <p>(個人)</p>	<p>「情報通信審議会 79GHz 帯高分解能レーダ作業班」において、77.5-78.0GHz におけるレーダとアマチュア局は共用が可能であるとの結論が出されているところです。なお、今後も既存業務への影響を考慮しつつ、検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>議題 8.2 について</p> <p>WRC-12 議題 8.2 に関わる我が国の考え方に示されている、次世代移動通信 (IMT) スペクトラム特定に関する WRC-16 議題提案を支持いたします。</p> <p>日本を含めた、世界的なモバイルブロードバンド需要の拡大、及び今後の発展を考慮する</p>	<p>議題 8.2 の考え方を支持する御意見として承ります。</p>

<p>と、グローバルな IMT 周波数の追加割当が必要であると考えます。このため、2012 年に開催される WRC-12 で、WRC-16 において IMT 周波数拡大を議論するための新議題を設立する必要があると考えます。</p> <p>(株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ)</p>	
<p>議題 1.2 及び 1.17 について</p> <p>WRC-7 で(1) IMT (第 3 世代及び第 4 世代移動通信システム) への将来の周波数確保が採択され、③ 698 - 806MHz 108MHz 幅が定義されている。そこで、新規に同帯域で移動業務用として周波数の枠組を行うにあたっては、</p> <p>1. 既存移動業務の適切な保護及び十分な配慮をすべき</p> <p>説明：(既存業務との競合回避及び周波数の効率的利用)</p> <p>日本国内においては当該周波数帯域のうち 815MHz 以上での既存移動業務がある 815MHz 以下で新規に当該周波数帯域の枠組を行うにあたっては、既存移動業務に制約を設けるべきではなく、また既存移動業務と競合しない枠組で導入を行うべきである。</p> <p>815MHz における既存移動業務が移動局送信で使用しているため、815MHz 以下で新規に移動業務の枠組みを決める際も隣接システムは移動局送信とすべきであり、周波数の効率的利用にも繋がる。</p> <p>2. 既に移動業務として運用している国・地域との国際的な協調手段の確保をすべき</p> <p>説明：(新しい周波数の枠組みを作る際は既存で運用中の国との協調を考慮すべき)</p> <p>698-806MHz においては既に北米で第 4 世代の移動通信業務が行われており、大きな市場を形成することは間違いのない。</p> <p>Asia-Pacific Telecommunity(APT)が同帯域で新しい周波数の枠組みを作るにあたっては、既存市場と競合する枠組みを単独で新たに作るべきではなく、上手く共存できるよう配慮すべきであり、願わくば既存北米市場、Inter-American Telecommunication Commission (CITEL)、Asia-Pacific Telecommunity(APT)が共に協調できる方法が理想である。</p> <p>第 4 世代移動通信の周波数の枠組は多</p>	<p>頂戴した御意見につきまして、議題 1.2 及び 1.17 に直接かかわるものではございませんが、今後の検討に際して参考とさせていただきます。</p>

様化しつつあり、これ以上他国と協調できない地域独自の周波数の枠組みを増やすのは好ましくない。

3. APT で提案中の 698-806MHz 帯における周波数の枠組みに対しては以下の提案をおこないます。
- a.) 既存北米第 4 世代移動通信と協調できる枠組みの提案
  - b.) 既存 800MHz 帯と競合しない枠組みの提案
  - c.) 具体的には、既存 APAC700MHz 案に対し送受逆転と送受間隔を 62MHz に変更することの提案

(個人)